

山本助産院だより

2016. 2

236-0031

横浜市金沢区六浦 2-14-12

TEL 045-788-6601

http://yamamotojyosanin.com



お知らせ

◆藤田伸二医師による乳児健診が助産院地下であります。
3月17日(木)①13時~②14時~
15時から藤田先生を囲んでのQ&Aのコーナーがあります。
料金は3000円(横浜市補助券の対象です。)
予約は、助産院まで。お待ちしております!

* 詩子のつぶやき * vol.51

助産院を始めた当初から、「お産の感想ノート」を置いています。妊娠した時からの想い、お産の場面など臨場感あふれた文章が、産後まもなくであるにもかかわらずほとぼり出るように、描かれています。そして最後には、家族への想いと前に進もうとしている新たな決意を感じる文章が並びます。「お産の感想ノート」は、生き方も含めて、今一度振り返る大切なプロセスです。

きっと妊娠出産は、心も身体もリセットしてくれるのでしょう。いらぬものは、整理して、必要なものだけ残して・・・そして新たなものを受け入れる、儀式の様でもあります。嬉しいことにノートには、助産師への感謝や励ましの言葉がたくさん書かれています。予定日を過ぎてもなかなか陣痛の来なかったNさん、待つ苦しさにも耐えかね、もう限界と、助産院に電話すると

「今から助産院に来る?話をしようよ」と助産師に言われ、モニターを付けて元気な赤ちゃんの心音を聴きながら「大丈夫だよ」と言ってくれた、そんなありきたりの言葉であたたかくてホッとできたこと。お産は、1人目・2人目・3人目のお産でも、何一つ同じことにはなかった。助産師が、時にはお母さんのように、時にはお姉さんのように、時には友達のように話を聴いてくれて、お産も一緒に頑張ってくれて一体感を感じた。と書いてありました。

Mさんは、お産の時、助産師学生に「助産師に、何を望みますか?」と聞かれて、家族のフォローをしてもらえることと答えましたが、もうひとつ・・・自信を持って生き生きと働く助産師になってほしいと思っていましたと書かれていました。何度妊娠しても出産しても、わからないことや不安なことが多い中、安心できる助産師の存在が大きいとも。私達は、妊娠した女性と家族を支え、温かく包み込んで見守る役目です。妊娠経過が順調であるように、お産が無事に進むように、揺るぎなく、迷わずに支えきること、励ましの中で、自分自身の力で進んでいけるようにサポートしていくことです。

私が産んだ、私の赤ちゃんを、私が育てていく、そんな当たり前のことが、なかなか難しく大変な時代です。

だからこそ、私達助産師の存在が大きいのでしょう。

あなた達のそばに、いつも助産師がいます。

困ったときに思い出してください。嬉しい時、

思い出してください。

山本助産院の助産師たちのことを。



◎親と子のつどいの広場 たんぽぽ◎

山本助産院地階ホールにて、横浜市補助事業親と子のつどい広場「たんぽぽ」がついにオープン!

広場では優しい育児ベテランスタッフが、ママとお子さんを見守ります。育児相談などもぜひどうぞ! ママ同士の交流も大切にしていきます。赤ちゃんを連れて安心して過ごせる広場になるよう、色とりどりの楽しいおもちゃと、ママがホッと一息つけるカフェコーナーを用意して、お待ちしております♪

初回は利用料無料です。連日楽しいイベントづくしです。お友達お誘いあわせのうえ、ぜひいらしてください!

~つどいの広場「たんぽぽ」イラストです~

HP や連絡網などでママたちに公募した「たんぽぽ」広場のイラストが、大歳貴子さんがかいてくださった。右のたんぽぽに決めました! ご応募してくださったみなさま、ありがとうございました♪



実習生の紹介

こんにちは。私たちは1/25から山本助産院で実習をさせていただいております。

毎日おいしいごはんをごちそうになり、体調もバッチリ! ☆ 食事の大切さを痛感しています。

先日は詩子先生にお料理を教えてもらい、味だけでなく盛り付けや作法も勉強になりました。まだ実習は始まったばかりですが、自然分娩や母乳ケアなどをたくさん学んでいきたいと思えます◎

国際医療福祉大学大学院修士課程
助産分野 手塚佳央里 小笠原絢子

「ルー」陸路~ママたちの文化祭 2015 スタッフより

渡邊 安紀子

文化祭では、副実行委員長!
二女一男の母です♪

「人生観を変えた山本助産院」

山本助産院で、3人目の二女をお産した。自分が根っからの現代医療人だということをここで初めて自覚した。

詩子先生の存在、助産院のあり方、スタッフの働き方、すべてが衝撃だった。

3人目の子のママ友なんて、作らないだろうと思ってた。

でもこの助産院での出会いが、医療人としてだけでなく私個人の生き方を、産まれ変わらせてくれた。お産をきっかけに、観るもの聴くもの感じるものすべてが新しく、心が躍動している。

私の中に一体何が起きているのだろうか?

春には育休明けで、現場に戻る。

フルタイムで定年まで働きながら出世して子どもを育てる事に何の疑問も無かった私は今、先が見えなくなっている。

でも、お先が真っ暗で見えないのでは無い事だけは、はっきり見える。

自分はすごく狭い領域の中で生きて子育てをしていたということ。

そして3人目の命に会えなければ、そのままの生き方だったということ。

この3人目の命は私を救い、それは同時に上の二人を救ったということ。

上の二人が私を育ててくれたから、3人目の命がまた救われているということ。

この助産院と、沢山の人の、経験を引き当てたのは自分だということ。

「お産」ってその度に自分を生まれ変わらせてくれるから本当に凄いな。

言葉にするとありきたりになってしまうけど、「一感謝」。

ありがとうございました。